

平成17年9月の解説（週間天気予報）

【9月の天候状況】

上旬の初めは高気圧に覆われて全国的に晴れましたが、中頃は前線や台風第14号により各地で暴風や大雨となりました。上旬の終わりから中旬にかけては、北日本では低気圧の影響を多く受け数日周期で雨や曇りとなりましたが、東日本、西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。下旬の前半は、北日本、東日本では低気圧と台風第17号の影響で曇りや雨の日が多く、西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。下旬の後半は高気圧が北日本を通過したため、その南縁にあたった東日本や西日本の太平洋側の地方では曇りや雨となりましたが、そのほかの地方は晴れました。

月を通しての日照時間は、全国的に平年より多く、東北地方南部と関東甲信地方では多くの観測地点で平年の120%以上となりました。降水量は九州地方と四国地方で多く平年の300%以上の観測地点がありましたが、東北地方南部から近畿地方にかけては平年より少なく、平年の40%未満の観測地点がありました。月平均気温は全国的に平年より高く、東日本、西日本では平年より2℃以上高い観測地点がありました。

【9月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より9ポイント高い72%でした。全ての地方で5ポイント以上高く、特に北海道、東海、近畿、中国地方では、10から12ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.3℃小さい2.1℃で、北海道、関東甲信、近畿、中国、九州北部地方では0.4℃から0.5℃小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.4℃小さい1.7℃で、関東甲信、東海、近畿、九州南部地方では0.5℃から0.8℃小さくなりました。（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の週間天気予報から】

9月24日は、関東地方の南部を中心に広い範囲で雨が降り、東京地方では日降水量が20mmから40mmになりました（図1）。これは、台風第17号の周りから暖かい湿った空気が関東付近にある前線に吹き込んで雨雲が発達したためです（図2）。

東京地方の24日の天気についての週間天気予報は、7日前（17日に発表）から4日前（20日に発表）では「くもり」、3日前（21日に発表）では「くもり一時雨」と発表しました（表）。つまり、当初予想の「くもり」を、後に「雨」の予報に修正しました。

当初（17～20日）の発表予報の検討（図3a）では、日本の南海上に気圧の低い部分が広がっていることから、

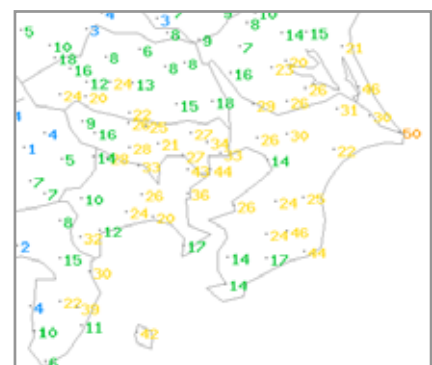


図1 2005年9月24日の7日平均日降水量

予報発表日							実際の天気	
17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	昼	夜

表 2005年9月24日の東京の天気の予報と実際の天気

台風や熱帯低気圧の存在は推測されますが、その位置や強さを正確に予測できませんでした。日本の東海上にも気圧の低い部分があり、「晴れ」とはなりにくく、天気は「くもり」で降水確率を 40%としました。

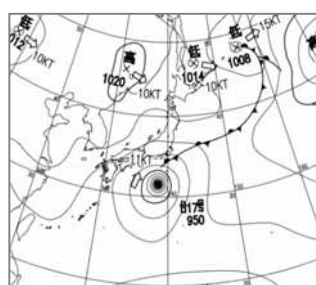
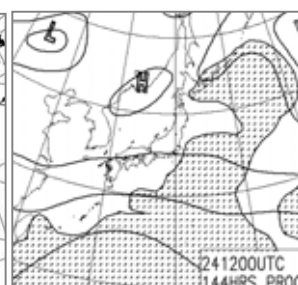
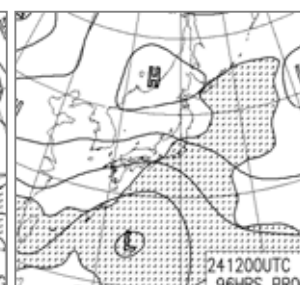


図2 2005年9月24日21時の実況地上天気図



a_19日に使用した予想図



b_21日に使用した予想図

図3_天気予報に使用した2005年9月24日21時の予想図

一方、3日前の21日発表予報の検討（図3b）では、19日の予想図（図3a）と同様に日本の東海上に気圧の低い部分が予想されているうえ、日本の南海上には台風を示唆する低気圧が予想されています。このため台風の周りから暖かい湿った空気が流れ込んで関東地方では雨雲が発生しやすいことが予想されることから、雨が降る予報に変更しました。

現在の予報技術では、台風の発生や進路を3日間を超えて予想することが難しいことから、台風の影響を受ける可能性がある場合の週間天気予報では判断が難しくなります。

【11月の週間天気予報の利用にあたって】

晩秋になると、冬型の気圧配置になることが多くなって、日本海側を中心にしぐれ模様になり、北日本では雪やみぞれが降るようになりますが、毎年同じような経過をたどるのではなく、年によって大きな違いがあります。秋田市の2002年と2004年の11月を比較してみると（図4、5）、2004年は気温が平年より高い状態が続いて降水のほとんどが雨で29日にみぞれが降っているだけです。一方、2002年は気温が平年より低い状態が続いて早くも2日にみぞれが降り、その後もしばしば雪やみぞれが降っています。

降水が雨となるかみぞれや雪となるかはその時の地上や上空の気温や湿度などで複雑に変化します。降り始めは雨でも途中からみぞれや雪に変わったり、逆にみぞれや雪が途中から雨に変わったりもします。

雪が降れば視界が悪くなり、積もれば路面が滑りやすくなるなど、雪は雨に比べて降水量が少なくても交通に大きな障害となる場合があります。週間天気予報で、雪が降る予報が出ている場合には、前もって雪への備えが必要です。

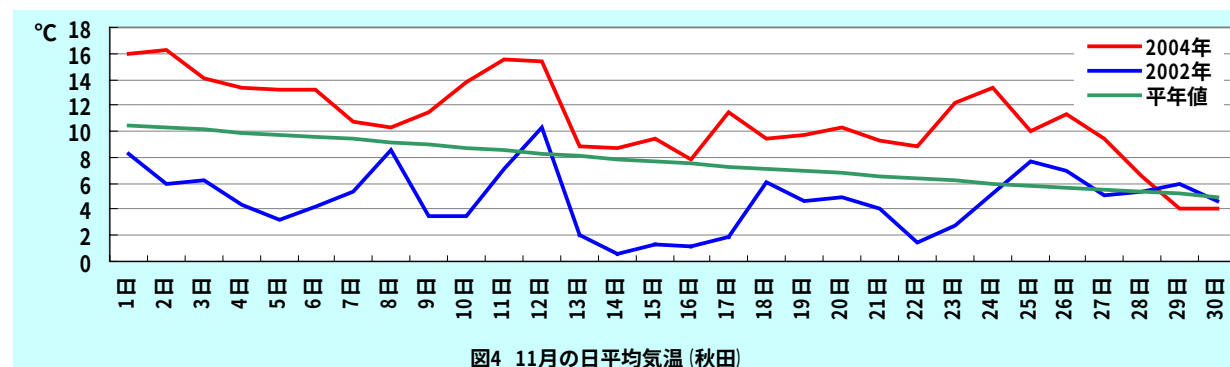


図4 11月の日平均気温（秋田）



図5 11月の日中の天気（秋田）